

羽田空港跡地第1ゾーン整備事業（第一期事業）モニタリング報告 概要版

羽田空港対策特別委員会
令和4年9月21日
空港まちづくり本部 資料18番
所管 空港まちづくり課

1 本事業におけるモニタリングの趣旨

- 区はモニタリングによる提案事項の実施状況の確認に留まらず、事業成果の評価・分析を通じた課題の抽出と対応策を検討
- 結果については、SPCに提示し、次年度以降の事業計画等に反映するよう協議
- 公民連携による持続可能な事業運営に資するとともに、本事業の政策目的の達成を目指す

2 モニタリングの考え方

- SPCからの事業報告について、実施目的別に整理し、同種の「アウトプット指標」及び「アウトカム指標」に集約
- 事業全体は「経済波及の創出」「人の流れの創出」「認知度・満足度」をもとに評価

3 令和3年度の事業成果

	アウトプット指標	アウトカム指標	評価/課題	課題への対応策
先端産業	企業集積数：41社	企業交流数：3件 うち区内企業数：0社	・企業の集積が一時的なものとなり、企業交流を促す情報発信が不足している。	・先端産業創造委員会がHICityで多様な主体と連動し、企業間交流できる機会を創出する。
	技術を披露できた企業数：54社		・先端産業創造委員会が企業交流の場を創出するとともに、交流後も実証実験の場の提供や改良に向けたアドバイスなど伴走型の支援を行う。 ・HANEDA×PIOで実施した企業交流会のように、高頻度のビジネスイベントを行うなど、入居企業が定期的に集える場を設ける。	
	実証実験数：6件	実証実験参加企業数：32社	・イベント時における実証実験に留まっており、実験成果を周知する情報発信が不足している。 ・一時的な企業の参加に留まり、HICityにおける継続的な取組みが求められる。	・実証実験参加企業から成果や課題等を把握し、HICityでの実証実験の有用性について情報発信を行う。
文化産業	人材育成取組数：5事例	文化活動への複数回参加者数：0事例	・文化の鑑賞に留まる企画が多く、創造活動に繋がっていない。	・HICityにおける創作活動の場を、より継続的に提供することを通じて、国内外に向けて文化・芸術の情報発信を行うとともに、立地特性を活かした人材育成に繋げる。
	先端×芸術文化に関する企業集積数：7社	先端×芸術文化に関する研究開発数：1件	・企業同士が連携し、新たな産業を生み出す仕組みが必要である。	・入居する企業・店舗やイベント等での協力企業をさらに呼び込みHICityで実証するなど、先端技術と芸術文化の融合を積極的に促進する。 ・文化産業創造委員会を中心に、メタバースやNFTなどの先端技術と芸術文化が融合する新たなテクノロジーについて知見を深める。
	芸術文化に関する取組数：8件	文化イベント参加者数：約1.3万名	・芸術や文化の発信のみならず、HICityでの創造に繋がる取組みが求められる。	・区内における文化・アート資源を把握し、HICityでの連携について検討を進める。 ・文化産業創造委員会が、有識者やアーティストなど芸術文化の創造・発信に携わる団体・企業をHICityへ誘引する仕掛けを行う。
共通事業	地域活動数：5件	地域活動参加者数：1,253名	・一過性の取組みに留まるとともに、継続的な地域活動が求められる。	・地域との信頼関係を構築し、地域団体（まち歩き団体や防災に取り組み団体など）が活動できる場を提供する。 ・社会科見学の受け入れ態勢を構築するなど、先端技術や日本文化に触れられるHICityならではの学びや体験を提供する。
	情報発信数：81件	認知度：29.2%	・小中学生以外のターゲットにも適した発信が求められる。	・季節に合わせた装飾や、飲食店舗と連携した特典をつけるなど、ライブホールに訪れる若年層に訴求する企画などを検討する。 ・公民連携事業の強みを活かして、イベント開催時の広報活動にSNSを活用するなど工夫を行い、相乗効果を発揮する。

4 事業全体の成果

(1) 経済波及の創出

- HICity内における需要のみを把握する独自の産業連関表に基づき、経済波及効果額を算出
→直接効果が約33億円、一次波及効果が約13億円、二次波及効果が約4億円。合計約49億円
- HICityの波及効果について、どのように体感的に受け止められているかを把握するため、区内経済団体にヒアリング
→イベント時には賑わいが見られたことや個々の事業者では好影響を受けた例があったとの意見がある一方、業界全体への波及効果は現時点では限定的
→各団体は、HICityと区内事業者の連携による相乗効果に期待

(2) 人の流れの創出

(HICity来訪者数推移)



(HICity来訪者の区内居住地状況)



- 緊急事態宣言等の影響は受けているものの、1年を通して来訪者数は右肩上がりに推移
- 来訪者の多くは稲谷・羽田地域からであり、HICityからの距離が近くなるにつれて上昇
- 来訪者はHICity街区内の移動にのみ留まっており、区内への十分な回遊には繋がっていない

(3) 認知度・満足度

- HICityの認知度は29.2%（対前年度：+2.4ポイント）
（出典：令和3年度 区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査）
- 区立小中学校を通じたイベント周知により、子育て世帯の認知度向上に繋がったと推測
- 満足度については、全施設開業後に調査・分析を実施予定

5 総評・提言

(1) 総評

- 事業コンセプトに合致する企業集積を着実に進めるなど、まちの機能発揮に向けた基盤づくりを行った
- 新型コロナウイルス影響下での近隣区民へ目を向けた広報など、堅実にHICityファンの獲得に取り組んだ
- 自動運転バスの公道での実証実験など、スマートシティの実現に向けた取組みを加速している
- 全施設開業に向け、HICity全体の相乗効果を生み出すソフト面での取組みを充実する段階へ深化が必要

(2) 提言

- 区内事業者とのビジネスマッチングや連携体制の構築を引き続き行うこと
- 世界と繋がる地方創生のハブとしての役割を意識して本事業の充実や運営を図ること
- イベント時などに区内事業者との連携を行い、区内消費の活性化を意識する企画を検討すること
- 区内事業者との連携・協力を検討し、区内回遊による経済波及や人流を創出すること
- 入居者や来訪者にとって満足度の高いまちとなるよう、ユーザー目線での街区点検を行うこと
- HICityの先進性や強みを活かしたSDGsの取組みについて情報発信を強化すること
- 脱炭素の状況を把握・公表するなど、空港と連携した取組みを検討すること

◆ テーマ別分析

- 公民連携事業という社会的取組みを多角的に評価するため、テーマに基づく分析を実施
- 大田区SDGs推進会議が開催され、関心が高まっていることから、令和3年度はSDGsをテーマとして設定
- SPCが実施している事業のうちSDGsと関連している特徴的なものを抽出

【次世代の子どもたちへ、ものづくりに関する技術等について学ぶ機会を提供】



HICityならではの学びを通じた子ども達の生きる力を育む支援

【水素エネルギーの供給など、エコ・新エネルギーに関する取組み】



公共交通機関へのクリーンエネルギーの供給など環境負荷軽減に貢献

【「持続可能都市おた」の形成を支えるスマートシティを形成】



様々な分野での研究開発を促進し、技術の向上に貢献